〈指定生乳生産者団体〉九州生乳販売農業協同組合連合会

九州生乳販連会報

No. 67
August 2019

TOPICS

第20回通常総会を開催 …… 1
平成30年度事業報告 …… 2
生乳品質共励会表彰式 …… 9
生乳需給安定化対策に係る増産奨励措置 表彰式 …… 10
酪農情勢報告 …… 11
PAGs検査（妊娠判定）について …… 12
平成31年度月別受託生乳検査成績 …… 12
平成31年度会員別生乳受託乳量 …… 13
平成31年度販売状況について …… 13
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告について …… 14
平成31年度酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーターを募集します！ …… 16

第20回通常総会を開催

去る7月23日、福岡市内のホテルにて第20回通常総会を開催しました。

本総会の開催に際し、農林水産省・九州農政局を始め、一般社団法人中央酪農会議、一般社団法人Jミルク、九州管内の県庁畜産課、全農、全酪連より来賓のご臨席を賜りました。

隈部洋代表理事会長の挨拶後、来賓を代表して農林水産省牛乳乳製品課の丹菊課長補佐、中央酪農会議の迫田専務理事の2名に挨拶をいただきました。

その後、議長に宮崎県経済農業協同組合連合会の壹岐副会長を選任し、議事に入りました。

平成31年度の事業計画につきましては、去る3月28日開催の臨時総会において承認を得ていますので、本総会においては下記の3議案が上程され、全て原案どおり承認されました。

第1号議案

平成30年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書及び剰余金処分案の承認について

第2号議案

定款の一部改正（案）について

第3号議案

監事監査規程の一部改正（案）について

最後に、中村隆馬代表理事副会長が閉会の挨拶を述べ終了しました。

（第1号議案の概要については次葉以降掲載）

隈部会長

丹菊課長補佐

迫田専務理事

壹岐議長

平成30年度 事業報告

一般概況（抜粋）

国内農業・酪農を取り巻く情勢について

国内農業へ影響の大きい通商交渉については、平成30年12月30日にTPP11が発効、翌平成31年2月1日には日欧EPAが発効されました。TPP不参加となったアメリカは我が国との2国間FTA交渉を求めており、通商交渉で後れを取ったアメリカが日本に対してTPP、日欧EPA以上に厳しい要求を迫る可能性も高く、今後の交渉動向については注視が必要です。

酪農においては補給金制度が見直され、恒久法「畜産経営の安定に関する法律」に補給金制度が盛りこまれ4月1日より施行されました。今後、需要増が見込まれる乳製品に仕向けやすい環境を整備するため生産者補給金の交付対象の拡大、指定事業者に対する集送乳調整金を交付することとなり、本会も指定事業者として指定申請書と生乳受託販売計画を提出し認可を受けました。一方では、生乳の販売先を選択することができるようになったことから一元集荷多元販売の機能が弱まり生乳需給の混乱等が懸念されました。九州においては大きな混乱はありませんでしたが、本会の販売機能を維持強化するためには、全国の動向について情報を収集しながら適切な対応が必要になります。

30年度の乳価については、チーズ向けの取引価格が値上げとなり、その他の用途の取引価格は据え置きとなりました。チーズ向けの取引が少ないので値上げの影響はごくわずかとなりましたが、用途別販売においては牛乳の消費が堅調に推移したことから、域内・域外飲用が前年を上回ったこと、脱脂粉乳・バター向けと生クリーム向けが減少したことで乳価が上がりました。30年度の支払乳価は前年度と比較して0.253円/kg上回った単価となりました。

生乳生産量については605,279t（計画比100.7%、前年比100.4%）と前年度を上回りました。会員や関係先を含めた生乳増産への取り組みの効果が現れましたが、一方では酪農経営の廃業に歯止めがかからず30年度中に58戸の酪農家が廃業・離農しました。

今後も生乳販売においては飲用化の推進と用途別販売数量の管理、販売費用削減による乳価アップに努め、負託に応えることで酪農家に必要とされる組織となるよう努力してまいります。また相互扶助の精神により組織の強化に努めてまいります。

1. 生乳受託販売数量

平成30年度生乳需給安定化対策は、平成29年度からの変更点として、販売基準数量（新規就農枠含む）・特別調整乳数量・選択的拡大生産数量の3種類の生産枠による目標数量設定、超過・未達に係る措置を休止することとし、①新たな補給金制度に基づき農林水産省に提出した、平成30年度年間販売計画の数量を平成30年度生乳出荷目標数量として設定、②平成32年度を目標年度とする中期出荷目標数量を設定、③生乳出荷目標数量達成のための対応として、生乳生産基盤維持・強化計画を作成し中酪に提出するとともに、域内の基盤強化対策の進捗管理等を実施、④生乳出荷目標数量達成のための増産奨励措置の検討、等を定めた「平成30年度生乳需給安定化対策の実施について」（平成30年3月9日開催 第16回理事会）を策定しました。これに基づき、平成30年度生乳出荷目標数量は614,460t（前年比101.9%）となり、中期出荷目標数量は603,072t（平成29年度総受託販売数量）となりました。

このような中、平成30年度上期は、平成29年度下期からの出生頭数の増加による生乳生産の回復が見られたことと、前年同時期の落ち込みが強かったことに対する反動もあって、上期計では303,506t（計画比101.1%、前年比101.2%）と計画・前年の数量をともに上回る実績となりました。下期においては、前述のとおり生乳生産が回復傾向にあった前年同時期に対する反動により、10月と2月を除いては前年を下回る推移となったものの、前年との乖離は最小限に抑えられた結果、下期計では301,774t（計画比100.4%、前年比99.6%）となりました。年度計では

表1　月別生乳受託販売数量実績（単位：計画t、実績kg、%）

月	事業計画	実　績	計画比	前年比
4	54,000	55,214,086	102.2	102.1
5	55,200	55,369,530	100.3	100.4
6	51,300	51,002,625	99.4	99.5
7	47,800	48,333,280	101.1	101.2
8	45,600	47,110,552	103.3	103.3
9	46,200	46,475,553	100.6	100.7
上期計	300,100	303,505,626	101.1	101.2
10	48,400	48,678,808	100.6	100.5
11	47,700	47,534,211	99.7	99.7
12	50,500	50,358,742	99.7	99.6
1	52,200	51,785,554	99.2	99.3
2	48,000	48,428,778	100.9	100.1
3	53,900	54,987,466	102.0	98.5
下期計	300,700	301,773,559	100.4	99.6
年度計	600,800	605,279,185	100.7	100.4

605,279t（計画比100.7%、前年比100.4%）と、計画・前年の数量をともに上回る実績となりました。（表1）

2. 生乳販売

平成30年度の生乳販売は、7月までは域内飲用、域外飲用ともに前年を上回って推移しましたが、8月には需給期への警戒感から域内飲用が前年を下回り、域外飲用が大幅に増加しました。9月は台風21号、北海道胆振東部地震の影響により北海道の道外移出生乳が大幅に減少し、都府県の需給が大逼迫に陥りました。その結果、大手乳業者は関西地区の学乳供給を優先させるため、自社の九州域内飲用処理を減少させ、生乳で域外自社工場向けに行き先を変更する対応を進めたことが影響し、域内飲用が減少、域外飲用が増加しました。10月以降も逼迫傾向が継続することが懸念されましたが、北海道の生乳生産が早期に回復したこともあって需給は比較的安定して推移し、九州域内飲用牛乳等向けへの安定的な供給を行うことができました。

このような中、飲用牛乳等向けは424,598t（計画比102.1%、前年比101.6%）と計画・前年の数量を上回りました。はっ酵乳等向けについては29年度までのような大きな需要の伸びはなく90,766t（計画比99.3%、前年比99.4%）と計画・前年の数量をともに下回りました。脱脂粉乳・バター等向けについては、7月は西日本豪雨の影響、8月は前年に対する反動により前年実績を上回りましたが、その他の月では堅調な飲用需要が継続したこともあって59,366t（計画比98.1%、前年比97.6%）と計画・前年の数量をともに下回りました。クリーム等向けについては大手乳業者の生クリームに係る処理数量が5月以降減少したことから29,388t（計画比92.8%、前年比91.7%）と計画・前年の数量をともに下回りました。チーズ向けについては、1,159t（計画比96.6%、前年比98.2%）と計画・前年の数量をともに下回りました（表2-1）。脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向けを合わせた加工原料乳数量から公共分を除いた認定数量は89,039t（交付対象数量の96.2%）となりました。

販売先を地域別に見ると、九州域内490,436t（前年比100.0%）、中国地区29,123t（前年比96.1%）、関西その他地区85,719t（前年比104.1%）の実績となりました。（表2-2）

表2-2　地域別販売実績　（単位：kg、%）

地域別	実　績	前年比	構成比
九　　州	490,436,289	100.0	81.0
中　　国	29,123,642	96.1	4.8
四　　国	0	—	—
関西その他	85,719,254	104.1	14.2
計	605,279,185	100.4	100.0

3. 生乳販売価格・販売費用

平成30年度の生乳販売価格は、チーズ向け（ハード向け＋4円、ソフト向け＋5円）の値上げが実施され、その他の用途は据え置きとなりました。

こうした中、テレビ番組等の効果によって域内飲用が好調に推移し、生乳生産が前年を上回って推移したことで域外飲用も前年を上回り、飲用向けはほぼ年間を通じて前年比100%を上回ることとなりました。一方、脱脂粉乳・バター等向けは堅調な飲用需要が継続されたこともあって前年を下回り、クリーム等向けは大手乳業者の生クリームに係る処理数量が5月以降減少したことから前年を下回りました。これらの結果、生乳販売価格は前年＋0.292円/kg、成分加算金を加えて＋0.263円/kgとなりました。

販売費用については、域外向け出荷の増加により送乳費が前年＋0.028円/kg、送乳費の総額から需要者負担額（乳業者からの運賃補填、△0.001円/kg）を差し引いた送乳費の生産者負担額は前年＋0.027円/kg、CS・冷却費は保守修繕費等が圧縮され前年△0.019円/kgとなり、費用全体としては前年＋0.010円/kgとなりました。

生乳販売代金（基本乳代＋成分加算金）から販売費用を差し引いた支払単価は前年＋0.253円/kgとなりました。（表3）

4. 乳代精算

生乳代金の精算は、25年度に改正した季節別乳価実施要領の調整率92～114%の季節別乳価によって精算を実施しました。

当月に販売したプール対象生乳代金に調整率を乗じ

表2-1　用途別販売実績　（単位：計画t、実績kg、%）

用　途		計　画	実　績	計画比	前年比	構成比
	域内飲用	278,810	281,853,905.20	101.1	100.9	46.6
	学　　給	39,760	40,111,291.80	100.9	100.4	6.6
	域外飲用	97,420	102,633,315.80	105.4	104.1	17.0
飲用牛乳等向け計		415,990	424,598,512.80	102.1	101.6	70.1
はっ酵乳等向け		91,390	90,766,065.20	99.3	99.4	15.0
脱脂粉乳・バター等向け		60,540	59,366,572.00	98.1	97.6	9.8
クリーム等向け		31,680	29,388,948.00	92.8	91.7	4.9
チーズ向け		1,200	1,159,087.00	96.6	98.2	0.2
計		600,800	605,279,185.00	100.7	100.4	100.0

表3　販売乳価及び費用の比較

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

年　度			30年度	29年度	差
乳　量			605,279 t	603,072 t	2,207 t
	プール対象生乳代金	金額	64,439,565千円	64,028,878千円	410,687千円
		単価	106.463円	106.171円	0.292円
	成　分加算金	金額	1,056,517千円	1,069,626千円	-13,109千円
		単価	1.746円	1.774円	-0.028円
生乳代金計		金額	65,496,082千円	65,098,504千円	397,578千円
		単価	108.208円	107.945円	0.263円
販売費用		金額	3,228,238千円	3,209,994千円	18,244千円
		単価	5.333円	5.323円	0.010円
支払乳価		金額	62,267,844千円	61,888,510千円	379,334千円
		単価	102.875円	102.622円	0.253円

て得た当月の季節別生乳代金を受託乳量で除して単価を求め、求めた単価を会員ごとの受託乳量を乗じて得た金額を精算しました。月毎の調整により発生した調整残額と借越しの金利負担額は6～11月の受託乳量実績で精算し、3月分生乳代金と同時に送金しました。(表4)

表4　生乳代金の精算

月	プール対象生乳代金(千円)	調整率(%)	精算生乳代金(千円)	調整額(千円)	調整額累計(千円)
4	5,740,613	94	5,396,128	344,486	344,486
5	5,921,338	94	5,566,022	355,316	699,801
6	5,549,316	100	5,549,290	26	699,828
7	5,212,523	110	5,733,729	△521,205	178,622
8	5,059,625	111	5,616,143	△556,519	△377,896
9	5,110,708	114	5,826,175	△715,468	△1,093,364
10	5,307,782	105	5,573,139	△265,358	△1,358,722
11	5,144,822	100	5,144,818	4	△1,358,717
12	5,192,989	93	4,829,454	363,535	△995,182
1	5,432,985	92	4,998,342	434,643	△560,539
2	5,116,394	92	4,707,035	409,359	△151,180
3	5,650,471	92	5,198,405	452,066	300,886
計	64,439,565		64,138,679	300,886	

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

5. 加工原料乳生産者補給金

加工原料乳生産者補給金等暫定措置法において運用されてきた加工原料乳生産者補給金は、平成30年度4月より改正施行された畜産経営の安定に関する法律に基づき加工原料乳生産者補給金と集送乳調整金に分かれることとなり、加工原料乳生産者補給金単価は8.23円／kg、集送乳調整金単価は2.43円／kg、合計では1kg当たり10.66円となりました。また、配分方法は各事業者からの申請数量に基づき配分される方法へと変更されました。

こうした中、平成30年度の九州の加工原料乳交付対象数量は、本会から農林水産省に提出した平成30年度年間販売計画に記載する特定乳製品向け(脱脂粉乳・バター向け、クリーム等向け、チーズ向けの合計)数量のとおり承認を受け、92,526.4tとなりました。

平成30年度の認定数量は89,039,147 kgとなり、交付対象数量内に収まりました。補給金は、総額949,157,303円を四半期ごとに支払い(ただし第2四半期分については第4四半期と同時期に概算払い)、受託乳量1kg当たりの単価は、生産者補給金が1.219円／kg、集送乳調整金が0.360円／kgとなりました。

表5　加工原料乳生産者補給金について

項　目	数　量
交付対象数量	92,526,400kg
認定数量	89,039,147kg
補給金交付数量	89,039,147kg

項　目	単　価	金　額
生産者補給金	8.23円／kg	732,792,178円
集送乳調整金	2.43円／kg	216,365,125円
合計	10.66円／kg	949,157,303円

6. 生乳需給安定化対策に係る増産奨励措置

本会会員を通じて本会に生乳販売を委託し、平成29年度の期首から平成30年度期末までの期間において生乳出荷を継続した生産者のうち、平成30年度の年間および需要期(6～11月)の生乳受託販売数量がともに前年を上回った生産者を対象とし、その増産度合いの高い順に表彰を行う増産奨励措置を実施しました。

対象期間中に生乳出荷を継続した生産者1,327戸のうち598戸で、年間および需要期の生乳受託販売数量がともに前年を上回りました。年間乳量に応じて部門分けし、各部門上位5名の計15名とその15名を除く部門ごとの各会員の上位1名の計21名、合わせて36名へ褒賞を授与することとしました。

7. 酪農理解醸成及び消費拡大活動

(1)会員実施分

事業総額　39,790千円

各会員が実施した酪農理解醸成活動、牛乳消費拡大運動への助成を行いました。また、酪農が生活者に

とってより身近なものとなるよう、「ファン獲得運動」としてフェイスブックを活用し、各会員から提出された生産現場の写真を生活者へ向けて発信しました。

(2)酪農理解醸成及び牛乳消費拡大対策事業

事業総額　47,271千円

平成30年度の酪農理解醸成及び牛乳消費拡大は、酪農を取り巻く情勢を踏まえつつ、九州の酪農の存在価値や果たすべき役割について生活者に訴求するとともに、酪農を応援してくれる生活者を増やせるよう取り組みを実施し、新規就農者や酪農後継者が酪農に対し期待できるような事業を展開しました。

6月の「牛乳月間」では、6月3日に福岡でハッピーミルクフェスタ2018を開催しました。イベント内容としては、リーフレット等のサンプリング、牛乳・カルピス牛乳の無料試飲、模擬搾乳牛「くるみ」と模擬哺乳仔牛「クルクル」を使った擬似酪農体験、酪農家の1日・九州の牛乳パックを紹介するパネルを展示、ステージイベント等を実施し、合わせてその内容をFM FUKUOKAで公開収録・放送するなど酪農について生活者に身近に感じてもらうとともに、イベントにご参加いただいた酪農家との交流の場とすることで酪農理解醸成と牛乳消費拡大を訴えました。

また、酪農に対する安心感・親近感を持ってもらうため、大分県竹田市の㈲はみんぐまむ・長崎県諫早市の山口牧場・宮崎県小林市の黒木牧場・熊本県菊池市の㈲隈部牧場の作業風景やメッセージ等の内容を撮影・編集し、九州Love Milk Clubのホームページと YouTubeに掲出しました。

新規事業としては、次世代を支える若手酪農家や農業高校生を紹介するテレビ番組を製作し、テレビ放送することで若手酪農家を応援するとともに、酪農の素晴らしさを生活者に訴求しました。

10月には長崎、熊本、大分の放送局主催のイベントに出展し、リーフレット等の提供や「くるみ」、「クルクル」を使った搾乳・哺育体験を実施しました。さらに、来場者に対して牛乳の試飲を行うことで酪農と牛乳の繋がりを感じてもらい、酪農理解醸成と牛乳消費拡大を訴えました。

乳和食事業では、九州各県の放送局イベントや駐車場スペースに小型キッチンカーで出向き、来場者に提供することでその美味しさと減塩効果についてアピールしました。また、小山浩子先生を講師とした乳和食教室を実施し、乳和食の魅力や作り方を伝えることで拡大を図りました。

新聞を使った酪農理解醸成活動としては、10月28日と11月24日の朝刊に「ウッシッシ」をメインコピーに掲出し、近年の酪農を取り巻く状況の中、ひた向きに従事する酪農家の姿を生活者に訴えました。

(3)牛乳定着化事業

事業総額　15,617千円(中酪助成金)

(一社)中央酪農会議『MILK JAPAN』活動を実施しました。『ハッピーミルクフェスタ2018』にて活動への参加、サンプリングや情報発信を行い牛乳の消費拡大を訴えました。

さらに、MILK JAPANの認知率アップと「九州産」牛乳をPRし、牛乳購買の促進を図るため、11月には『秋ミルクでほうじ茶きなこラテ』、3月には『春ミルクでいちごミルクセーキ』と題し、九州内の流通店舗牛乳売場にて店頭販促を実施しました。

(4)酪農教育ファーム事業

事業総額1,796千円

(中酪助成金1,738千円、実施者負担58千円)

酪農理解醸成を目的として幼稚園生から大学生及び親子連れや教育関係者を対象に酪農に触れる機会を設け、酪農体験などを実施する酪農教育ファーム活動を実施しました。九州地区では6月に年間の活動計画を諮るために酪農教育ファーム九州地区推進委員会を開催しました。また、活動開始から20年を迎えた今年度「シンポジウム　酪農教育ファーム20周年を節目に～酪農を通して食・しごと・いのちの学びを未来につなぐ～」が開催され、歩みを振り返ると共に未来へつなげるためにパネルディスカッションが行われました。

九州の主な活動として、教師のための酪農体験学習会の開催、学校で実施される酪農体験に係る費用補助を実施しました。

酪農体験時における家畜伝染法の対応として各地域の実態に沿った中で「交流活動における感染症防疫マニュアル」を遵守し体験を行いました。また、認証牧場7戸に現地検査を行うことによって、安全に活動できる環境維持に努めました。

新規認証取得については7月から募集を開始し、新たに5名のファシリテーターと2戸の認証牧場が新規認証を取得され、会員担当者と牧場の安全や衛生面の現地審査を行いました。

年度末の認証牧場とファシリテーター数は表6-1、事業費の内訳は表6-2のとおりです。

表6-1　(単位　認証牧場:戸、ファシリテーター:人)

	認証牧場	ファシリテーター
福岡	5	10
佐賀	2	2
長崎	1	1
熊本	5	10
大分	5	11
宮崎	7	14
鹿児島	5	6
計	30	54

表6-2　　単位（千円）

事　業	内　訳		実績
	委託費	自己負担	
九州地区推進委員会	200	0	200
教員対象酪農体験学習会	148	0	148
酪農体験学習会（費用上限1/2補助）	67	58	125
会議出席旅費	132	0	132
既存認証牧場現地検査	50	0	50
新規認証牧場現地審査	30	0	30
その他	11	0	11
事業推進費	1,100	0	1,100
合計	1,738	58	1,796

8. 生乳検査事業

（1）生乳検査成績

各検査項目（脂肪分率・蛋白質率・乳糖分率・無脂乳固形分率・氷点・乳中尿素・体細胞数・細菌数）の受託に係る配分検査を生産者バルククーラー単位に月2回、年24回実施しました。

乳質検査結果について、30年度の年間加重平均では脂肪分率3.88％・無脂乳固形分率8.78％でした。24年度から脂肪分率の低下傾向がみられましたが前年度と同等の値を維持しています。

体細胞数について21.3万/mlと昨年度と同等で平成26年度（20.5万個/ml）より増加していますが、毎年変動している範囲であります。昨年の災害的な猛暑により牛体に過大なストレスが掛かりましたが、生乳品質への大きな影響はありませんでした。

細菌数の加重平均は2.9万個/mlとなり、前年度と同等の乳質を維持しました。これを前年度とのペナルティバルクの発生率で比較すると、29年度0.79％・30年度0.49％となり0.3％減少し改善されています。また、ペナルティ乳量の発生率は30年度0.3％で前年度0.5％より0.2％減少しています。

氷点の検査は、30年度もバルク乳での検査を実施し、改善が必要な生産者については会員へ指導を要請しました。本会が定める氷点の基準外のバルククーラーの割合については、0.60％となり、29年度0.76％より減少しました。

過去5年間の乳質等の推移は表7-1のとおりです。

表7-1

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
脂肪分率	3.89%	3.86%	3.87%	3.89%	3.88%
無脂乳固形分率	8.79%	8.78%	8.80%	8.80%	8.78%
全固形分率	12.68%	12.64%	12.67%	12.69%	12.66%
体細胞数	20.5万個	21.1万個	21.2万個	21.3万個	21.3万個
細菌数	3.6万個	2.3万個	2.7万個	2.9万個	2.9万個
氷点-0.510℃を超えるバルクの比率	0.55%	0.56%	0.76%	0.76%	0.60%

（2）生乳検査本数

検査総本数実績は生乳生産量が前年を上回るなか計画比97.5％、前年比98.5％となりました。配分検査は酪農家戸数の減少により前年比95.7％。乳用牛群検定検査は初妊牛相場の高止まりや牛資源不足による飼養頭数の減少により前年比98.8％となりました。依頼検査は前年比91.7％、生乳取引や生産者指導のための取引確認検査は前年比101.5％となりました。また、平成31年1月よりPAGs検査（妊娠判定検査）を新たに開始し、3月までに916本の検査を行いました。

乳用牛群改良検定事業については宮崎を除く6県について実施しました。また、乳業者との成分取引に係る検査については福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島について実施し、乳代精算に利用されました。

依頼検査は生産者からの依頼に応じて、指導検査は会員等からの依頼に応じて実施しました。

検査内容と実績本数については表7-2、検査種別・機器別の検査本数は表7-3のとおりです。

表7-2　　（単位：本）

内容	年間計画	30年実績	29年実績	計画比	前年比
配分細菌検査	33,600	32,713	34,168	97.4%	95.7%
配分成分検査	33,600	32,713	34,168	97.4%	95.7%
牛改検検査	865,200	847,101	857,724	97.9%	98.8%
依頼検査	32,000	21,523	23,461	67.3%	91.7%
取引・指導検査	50,000	55,117	54,321	110.2%	101.5%
総検査本数	1,014,400	989,167	1,003,842	97.5%	98.5%

表7-3　　下段は前年比

検査種別	コンビフォス	バクトスキャン	PAGs検査
牛群改良検定検査	847,101本 98.8%	－本 －%	－本 －%
バルク配分検査	32,713本 95.7%	32,713本 95.7%	－本 －%
個人依頼検査	18,066本 84.8%	2,541本 117.6%	916本 －%
指導・取引検査	53,826本 100.0%	1,291本 271.2%	－本 －%
合　計	951,706本 98.4%	36,545本 99.3%	916本 －%

※PAGsは1～3月の本数

（3）生乳検査料金

検査料金は受託乳量に対し0.12円／kgを徴収しました。その他の検査料金は乳用牛群検定45円/本、依頼検査は成分・体細胞で100円/本、細菌検査300円/本、PAGs検査800円/本です。宮崎県が自県で実施した乳用牛群検定については1検体あたり22円を自県内牛群検定費用負担として補助しました。

ペーパーディスク検査用シャーレについては、ふくおか県酪農協・長崎県酪連・大分県酪農協に継続して供給しました。

（4）検査所組織と検査精度

生乳検査所の更なる機能の拡充と充実に努めました。

本会は精度管理認証制度において「検査部門」(乳脂肪分率・無脂乳固形分率・体細胞数)及び、「検体採取部門」について認証を受け、年4回実施された外部精度管理に参加しました。結果は全ての項目において許容範囲内の精度を維持していました。3月末時点での全国の検査施設における認証取得状況は表7-4のとおりです。

機器の整備について、酪農家の減少・搾乳牛不足により生産乳量の減少が見込まれる中、修理コストの削減と効率的な検査の実施のため、機器のメンテナンスを熟知した技術職員の養成に努めました。また、検査機器の精度の維持、管理のため自主点検及び整備を定期的に実施しました。

30年6月FOSS社主催の全国指定団体生乳検査所技術研修会が当検査所で開催され、本会から5名が参加し検査技術の向上に務めました。

表7－4　認証検査機関の分類

分類・地域	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄	計
指定団体系	1	1	1	2	1		2	2	1		11
大手商系		4	7		4	6		1	3	1	26
中小商系			4			1					5
農プラ	2		1				1				4
計	3	5	13	2	5	7	3	3	4	1	46

(5)検査技術の普及

会員CS職員等の生乳に関する基礎知識の習得、検査技術の確認と向上を図るため、検査技術研修会を平成30年度は5、8、11月に3回開催し、組合・CS等の職員の他、検査関連の職員、農プラ系乳業の品質管理担当職員など19名の参加がありました。なお、講師は本会生乳検査所職員が行い職員の資質向上の機会と知識の習得にも寄与しました。

また、集送乳乗務員に対する研修会を2会員に延べ3回実施しました。その他に会員が開催する乳質改善の講習会に講師を派遣し、正確な検体採取と乳質の劣化防止、生乳の品質向上に関する講習会を行いました。

(6)生乳の安全・安心の確保

生乳の安全・安心の確保のための九州地域協議会を行政や各種指導機関、乳業者と乳業者団体、生乳生産に関連する業者を参集し8月に開催しました。

チェックリストの記帳率100%を達成するため「出荷伝票方式」になり6年が経過しましたが、多くの項目において記帳が出来ていない酪農家はいなくなり、巡回検証において6項目全て×の農家数はゼロを達成しました。

各会員が行った重点記帳項目等の巡回検証結果は表7-5のとおりです。

表7-5　重点記帳項目等の記帳状況

6項目全て○の農家	○又は×が混在する農家	6項目全て×の農家
1,257戸	94戸	0戸

全30個のチェック項目における○(「△」及び「使用していない」を含む)の比率はわずかに改善し99.6%(前年比＋0.6ポイント)となっています。

Jミルクが実施するポジティブリストに係る検査対象物質19物質(農薬6、動物薬品7、殺菌剤・殺虫剤他6)の結果は、全てのサンプルで不検出でしたが、搾乳関連場所以外でDDACとパコマの使用実態があるため、生産者へ注意喚起を行いました。また搾乳器具の殺菌は次亜塩素酸ナトリウムに統一した指導を継続して行いました。

30年度のタンクローリー生乳廃棄事故は50件・272トン(前年59件・337トン)発生し、前年より件数・廃棄乳量ともに減少しました。発生原因で多いのは抗菌性物質で、混入事故件数は昨年より増加し26件(前年比＋1件)、原因割合の52%を占めていました。細菌異常による廃棄事故は8件発生(前年比－7件)、原因割合で16%を占めています。また、黒色斑点(搾乳施設に起因する)による異物混入が10件(前年比＋2件)、原因割合で20%を占めました。多くの事故は、人為的ミス・点検漏れ等であったので生乳廃棄を減らせるよう、事故の際には詳細を報告してもらい原因を究明し、会員へ周知徹底を図り事故の未然防止に努めました。

発がん性を持つカビ毒アフラトキシンM1の生乳中への残留規制も29年1月に始まり残留の防止について、その啓蒙・周知を図りました。また、Jミルクの依頼により生乳中のアフラトキシンM1検査を10月に2検体(全国17検体)実施し、全てのサンプルで「陰性」となりました。

(7)生乳品質共励会の開催

平成30年度生乳品質共励会を30年4月1日～31年3月31日の対象期間で開催しました。

その結果、対象農家数1,321戸(大学校、高等学校を含む)で、最高得点は1,200点・平均点は906点(前年比±0点)となりました。審査委員会にかかる上位入賞者は最優秀賞で第1部三宅新太郎氏1,200点(長崎県)・第2部黒木英教氏1,188点(宮崎県)・第3部牧瀬勝利氏1,166点(鹿児島県)と優秀賞31名・優良賞(1,000点以上)255名となりました。

9. 補助事業

本年度は以下の補助事業を行いました。

(1)生乳生産者需要確保事業　15,121,414円

(2)国産チーズ生産奨励事業　2,412,540円

10. 酪農乳業産業基盤強化特別対策事業

一般社団法人Jミルクが実施する酪農乳業産業基盤強化特別対策事業のうち地域生産基盤強化支援事業を実施し、助成額は本会実施分が241,045円、会員実施分が77,098,923円、合計77,339,968円となりました。

11. 総務部門

(1)内部留保の充実

自己資本の強化を図る目的から、平成29年度剰余金のほとんどを任意積立金として内部留保に充て、経営健全化のための資金として積立てを行いました。

(2)効率的な資金管理

年間資金計画に基づき効率的な資金管理に努めました。生乳代金の債権管理については、販売部と連携し遅延先との協議を図りながらその減額に努め、財務の健全化に取り組みました。

(3)TPP11発効時期のズレに伴う対応

TPP11発効が当初予定の4月1日から延期され、12月30日発効となったことに伴い、本会の規程、要領、細則等の改正を行いました。

(4)消費税軽減税率制度・インボイス制度に伴う対応

両制度に伴い、乳代精算業務が大きく変わることから、担当者会議の開催等により会員との情報共有を進めました。

(5)コンプライアンス態勢の推進

コンプライアンス態勢や規程及び要領の理解に努めるため、コンプライアンス研修会を通じて職員への法令等の遵守、個人情報の保護等周知徹底に努めました。

(6)情報の提供

年4回「九州生乳販連会報」を発行し、会員、酪農家および関係団体へ生乳生産状況や販売状況、酪農を取り巻く環境の動向、酪農理解醸成や消費拡大事業など情報の提供を行いました。

貸借対照表

第20年度(平成31年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	**7,799,958**	**流動負債**	**7,361,353**
1.預金	811,715	1.短期借入金	30,000
2.事業未収金	7,046,137	2.事業未払金	6,992,696
3.棚卸資産	16	3.リース負債	13,527
4.雑資産	9,306	4.雑負債	325,129
5.貸倒引当金	△ 67,216	**固定負債**	**54,307**
固定資産	**152,552**	**負債の部合計**	**7,415,660**
1.有形固定資産	53,767	**出資金**	**70,000**
2.無形固定資産	0	**利益準備金**	**140,000**
3.外部出資その他の資産	98,785	**特別積立金**	**10,000**
		目的積立金	**270,000**
		繰越利益剰余金	**46,850**
		純資産の部合計	**536,850**
資産の部合計	**7,952,510**	**負債・純資産の部合計**	**7,952,510**

損益計算書

第20年度(平成30年4月1日より平成31年3月31日まで)

(単位:千円)

科目		金額
1 事業総利益		**226,481**
(1) 販売事業収益	69,654,382	
(2) 販売事業費用	69,521,108	
販売事業総利益		**133,274**
(3) 消費拡大事業収入	16,069	
(4) 消費拡大事業費用	15,051	
消費拡大事業総利益		**1,019**
(5) 検査事業収益	116,584	
(6) 検査事業費用	24,396	
検査事業総利益		**92,189**
(7) 補助事業収益	17,534	
(8) 補助事業費用	17,534	
補助事業総利益		**△ 0**
2 事業管理費		**185,267**
事業利益		**41,215**
3 事業外収益		**10,063**
4 事業外費用		**4,542**
経常利益		**46,736**
5 特別利益		**0**
6 特別損失		**351**
税引前当期純利益		**46,384**
法人税等合計		**7,762**
当期純利益		**38,622**
繰越利益剰余金期末残高		**46,850**

生乳品質共励会表彰式

去る7月23日、福岡市内のホテルにて平成30年度生乳品質共励会の表彰式を開催しました。

本会の生乳品質共励会開催要領に基づき、昨年4月1日から3月31日までの一年間を対象に、月2回実施した乳質検査の結果を配点基準により採点し24回の合計点数を1,200点満点で評価したものです。

それぞれの審査項目と基準値は、脂肪分率3.8%以上・無脂乳固形分率8.7%以上・細菌数3万以下・体細胞数10万以下・氷点－0.520度以下という、厳しいものになっています。

昨年は7月に発生した西日本豪雨により、西日本から東海地方で甚大な被害が発生しました。梅雨明け後には、九州でも40℃に迫る災害級の猛暑に見舞われ、生乳生産や自給飼料など九州酪農に大きな影響をもたらしました。審査対象となる1,329戸の平均点は前年と同じ906点となりました。

乳量階層別に3部門（第1部：250㌧未満、第2部250㌧以上500㌧未満：第3部500㌧以上）の最優秀賞受賞者の方を表彰式に招いてその栄誉を称え、九州生乳販連会長賞が授与されました。

また、副賞として第1部の三宅新太郎氏（長崎県）には九州農政局長賞と（一社）Jミルク会長賞が、第2部の黒木英教氏（宮崎県）には（一社）日本乳業協会会長賞と全国酪農業協同組合連合会会長賞が、第3部の牧瀬勝利氏（鹿児島県）には（一社）中央酪農会議会長賞と全国農業協同組合連合会会長賞がそれぞれ贈られました。

また、1,112点以上の優秀賞受賞者31名には、優秀賞受賞記念のステンレスプレートが、1,000点以上を獲得された255名の優良賞受賞者には「2018 優良生乳生産管理牧場」のステッカーがそれぞれ贈られました。今回優秀賞を獲得された方々は、表1のとおりです。

下段右より 第1部 三宅新太郎さん、第2部 黒木英教さん、第3部 牧瀬勝利さん

表1　平成30年度 優秀賞受賞者名簿及び得点

番号	県	氏　名	得点	規模別ランク	表　彰	番号	県	氏　名	得点	規模別ランク	表　彰
1	長崎県	三宅新太郎	1,200	1	最優秀賞1	18	鹿児島	櫛下町優三	1,132	1	優秀賞15
2	宮崎県	黒木　英教	1,188	2	最優秀賞2	19	福岡県	松永　安博	1,131	2	優秀賞16
3	鹿児島	牧瀬　勝利	1,166	3	最優秀賞3	20	熊本県	田中　栄一	1,129	3	優秀賞17
4	長崎県	松谷　　茂	1,168	2	優秀賞1	21	福岡県	江上　正生	1,129	3	優秀賞18
5	熊本県	井芹　康弘	1,159	2	優秀賞2	22	熊本県	後藤　　勝	1,129	2	優秀賞19
6	長崎県	井上　紀一	1,158	1	優秀賞3	23	熊本県	㈲サウスウィンド	1,128	3	優秀賞20
7	熊本県	鈴木　浩章	1,144	1	優秀賞4	24	大分県	㈲田中牧場	1,127	2	優秀賞21
8	熊本県	上田　健治	1,143	2	優秀賞5	25	宮崎県	財部　　猛	1,127	2	優秀賞22
9	熊本県	㈲櫻井牧場	1,142	3	優秀賞6	26	熊本県	中尾　孝祐	1,126	2	優秀賞23
10	福岡県	森田　純一郎	1,142	2	優秀賞7	27	熊本県	吉田　良一	1,124	1	優秀賞24
11	大分県	㈱ゆふいん牧場	1,140	1	優秀賞8	28	佐賀県	伊東　文彰	1,122	1	優秀賞25
12	熊本県	㈲生山牧場	1,137	2	優秀賞9	29	鹿児島	福満　和彦	1,121	3	優秀賞26
13	熊本県	㈲隈部牧場（七城）	1,136	3	優秀賞10	30	熊本県	松島　喜一	1,117	3	優秀賞27
14	熊本県	永田　孝房	1,136	1	優秀賞11	31	長崎県	田中幸一郎	1,116	2	優秀賞28
15	熊本県	松田　信一	1,135	1	優秀賞12	32	熊本県	土肥　倉森	1,116	1	優秀賞29
16	熊本県	右田　祐樹	1,133	2	優秀賞13	33	熊本県	㈲茶ノ木	1,112	3	優秀賞30
17	宮崎県	高千穂牧場	1,133	2	優秀賞14	34	長崎県	森山英二郎	1,112	2	優秀賞31

規模別ランク　1：250㌧未満　　2：250㌧～500㌧未満　　3：500㌧超

生乳需給安定化対策に係る増産奨励措置 表彰式

去る7月23日、福岡市内のホテルにて平成30年度生乳増産奨励の表彰式を開催しました。

生乳増産奨励措置は、本会会員を通じて本会に生乳の販売を委託し、平成30年度期首から期末まで生乳出荷を継続した生産者のうち、年間および需要期(6～11月)の生乳受託数量がともに前年を上回った生産者を対象とし、その増産割合の高い順に表彰を行うものです。「平成30年度 生乳需給安定化対策に係る増産奨励措置について」に基づき公平な選考を行った結果、36名の方を褒賞対象者としました。各賞の対象者は、表1のとおりです。

本会では、生乳増産奨励を今年度も継続致しますので、この取組みを1つのモチベーションとして、継続して生乳増産に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

下段左より 第1部 斉藤幸さん、第2部 尾方美季子さん、第3部 新堀重継さん･綾さん

表1　部門別褒賞対象者一覧

褒賞＼部門	①250㌧未満		②250㌧以上、500㌧未満		③500㌧以上	
	氏　名		氏　名		氏　名	
1位	斉藤　幸	熊本	尾方　学	熊本	新堀　重継	熊本
2位	田中　一二三	宮崎	清水　正樹	宮崎	永田　重浩	熊本
3位	㈱ゆふいん牧場	大分	阪本　孝治	熊本	眞栄ファーム	熊本
4位	今村　幸一	熊本	出　和実	佐賀	㈱阿蘇ファーム	熊本
5位	大田　信介	福岡	別城　国弘	熊本	三池　政文	熊本
奨励賞	森　次廣	福岡	高倉　守雄	福岡	㈲浦田牧場	福岡
	末竹　幸男	佐賀	杉原　博明	佐賀	㈲原口牧場	佐賀
	本多　正徳	長崎	田中　成年	長崎	橋本　満男	長崎
	木村　利徳	熊本	西村　浩	熊本	㈱ハイセクト	熊本
	工藤　博士	大分	川辺ファーム㈲	大分	㈲釘宮牧場	大分
	木上　武	宮崎	清水　宏二	宮崎	神戸畜産㈱	宮崎
	上村　力	鹿児島	南脇　敬一郎	鹿児島	松元　啓介	鹿児島

酪農情勢報告

1.九州の生乳出荷戸数

令和元年6月の生乳出荷戸数は1,318戸で、平成31年3月時点の1,340戸と比較すると22戸減少しています。

2.九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

23カ月令以下の頭数は前年を上回る推移が続いており、4～6月も前年を上回っています。一方、24カ月令以上の頭数は前年を下回る推移が続いており、総頭数は前年比99%前後での推移となっています。

表１　乳用種雌牛飼養頭数　（単位：頭）

		4月	5月	6月
23カ月令以下		29,323	29,401	29,676
	増減	656	834	859
	前年比	102.3%	102.9%	103.0%
24カ月令以上		77,774	77,451	76,966
	増減	-1,850	-1,776	-1,983
	前年比	97.7%	97.8%	97.5%
総頭数		107,097	106,852	106,642
	増減	-1,194	-942	-1,124
	前年比	98.9%	99.1%	99.0%

注：Jミルクホームページより

出生総頭数は、昨年8月以降前年を下回る推移が続いていましたが、今年5月は前年を上回りました。一方、3～5月の合計出生頭数の内訳として、これまで前年を上回る推移が続いていた乳用種雌の出生頭数は前年を下回り、乳用種雄が前年並み、交雑種は前年を下回りました。

表２　出生頭数　（単位：頭）

		3月	4月	5月
総頭数		3,529	2,405	2,161
	増減	-56	-36	171
	前年比	98.4%	98.5%	108.6%
うち、乳用種雌		892	529	430
	増減	19	-13	-12
	前年比	102.2%	97.6%	97.3%
うち、乳用種雄		631	351	306
	増減	-21	-10	31
	前年比	96.8%	97.2%	111.3%
うち、交雑種		1,516	1,176	990
	増減	-160	-18	46
	前年比	90.5%	98.5%	104.9%

注：Jミルクホームページより

3．生乳需給

（1）生乳受託販売数量

4～6月の九州の生乳受託販売数量は、昨年同時期の伸びが大きかった反動もあり、前年を2～3%前後下回る推移となりました。

また、同期間中の北海道の生乳受託販売数量は前年を約1%上回る一方、都府県は前年を約3%下回り、全国では前年を約1%下回りました。

表３　生乳受託販売数量　（単位：ｔ、%）

		4月	5月	6月
九　州		53,122	53,605	49,486
	前年比	96.9	97.5	97.7
都府県		269,891	274,332	256,067
	前年比	97.1	96.8	96.6
北海道		321,214	339,681	332,904
	前年比	100.5	101.2	101.1
全　国		591,104	614,012	588,970
	前年比	98.9	99.2	99.1

注：中央酪農会議　用途別販売実績（速報）より
注：公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

（2）生乳販売状況

4～6月の九州の生乳販売状況は、4月からの乳価改定に伴う需給動向への影響が心配されましたが、結果として期間中での極端な消費の落ち込みは見られませんでした。生乳生産が前年を下回る中、域内飲用は前年を上回り、域外飲用が前年を下回った結果、飲用牛乳等向けは前年を2%前後下回り、はっ酵乳等向け、脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向けはそれぞれ前年を下回りました。

また、同期間において、全国では飲用牛乳等向け、はっ酵乳等向け、クリーム等向けが前年を下回り、脱脂粉乳・バター等向けおよびチーズ向けが前年を上回りました。

表4　用途別販売数量　（単位：ｔ、%）

	用途	4月	5月	6月
九州	飲用牛乳等	35,159	38,683	37,291
	（前年比）	98.3	97.9	97.9
	はっ酵乳等	7,450	7,790	7,878
	（前年比）	99.8	98.3	99.6
	脱脂粉乳・バター等	7,718	4,516	1,983
	（前年比）	89.7	93.6	92.2
	クリーム等	2,695	2,514	2,246
	（前年比）	93.6	95.9	94.1
	チーズ	101	101	88
	（前年比）	101.1	102.3	89.4
全国	飲用牛乳等	257,821	281,806	285,315
	（前年比）	97.8	97.4	98.3
	はっ酵乳等	40,167	41,309	40,365
	（前年比）	100.6	98.8	98.2
	脱脂粉乳・バター等	147,108	145,439	121,210
	（前年比）	101.0	104.0	101.9
	クリーム等	112,829	109,547	107,964
	（前年比）	98.8	96.0	97.7
	チーズ	33,179	35,911	34,115
	（前年比）	97.6	105.0	102.0

注：中央酪農会議　用途別販売実績（速報）より

4．今後について

4月から乳価改定に伴う牛乳・ヨーグルト等の小売価格が改定され、需給への影響が心配されましたが、4～6月では極端な需要の落ち込みは見られませんでした。ただし、部分的ではありますが値上げの影響が出ているところもあり、今後生活者に値上げ価格が浸透した時の消費の停滞にはなお懸念が残ります。また、直近の7月は冷夏による影響で生乳需給が急激に悪化しています。本会としては、気候変動等を見据えた的確な需給調整に今後も取り組む一方、酪農理解情勢・牛乳消費拡大活動にも積極的に取り組み、生活者への値上げの理解と消費の維持・拡大を訴えていきます。

PAGs検査（妊娠判定）について

本会では、酪農生産基盤強化対策の一環として、乳牛増頭による後継雌牛の確保等につなげるため、平成31年1月よりPAGs検査（妊娠判定）を実施しています。

PAGs検査は、妊娠確認による空胎牛の早期発見・適切な再授精への活用によるコストの省力化などに利用でき、生産現場で関心が高い検査です。ぜひご活用ください。

なお、6月までの検査実績は下記の通りです。

検査に関する問い合わせは、九販連検査所または各県の担当者へご連絡ください。

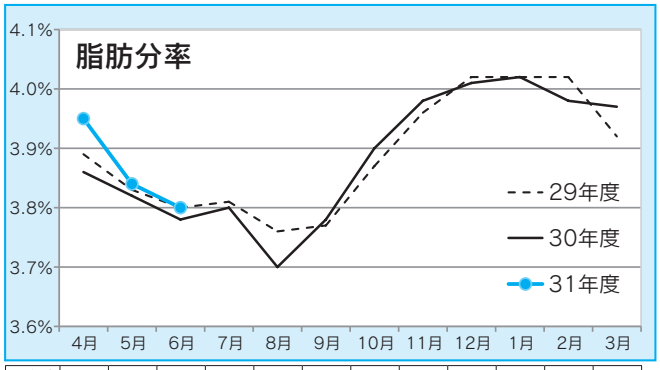
PAGs検査のメリット･デメリット

メリット	デメリット
生乳サンプルで判断できる 空胎牛の早期発見 妊娠早期の胚死滅や流産の確認	取得情報は妊娠／空胎のみ 胎児の生死は特定･判断できない 授精後日数によって再検査や偽陰性がある

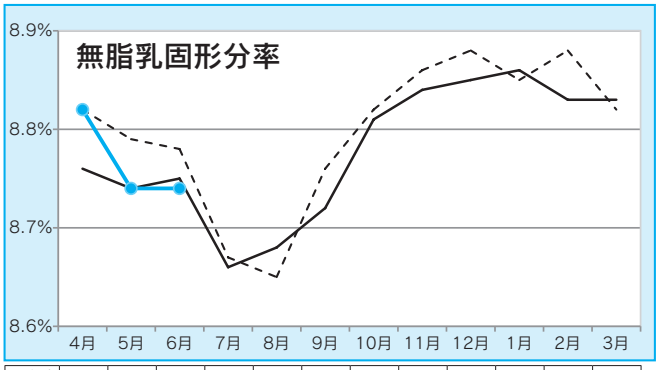
PAGs検査実績本数

	検査本数				分布		
	陽性	陰性	保留	合計	陽性	陰性	保留
平成31年1月	185	83	9	277	66.8%	30.0%	3.2%
2月	176	120	9	305	57.7%	39.3%	3.0%
3月	210	105	17	332	63.3%	31.6%	5.1%
4月	269	125	14	408	65.9%	30.6%	3.5%
令和元年5月	255	155	13	423	60.3%	36.6%	3.1%
6月	223	111	12	346	64.5%	32.0%	3.5%
合計	1,319	699	73	2,091	63.1%	33.4%	3.5%

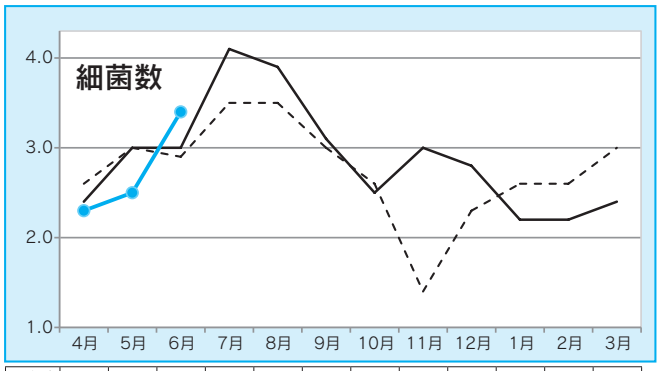
平成31年度　月別受託生乳検査成績



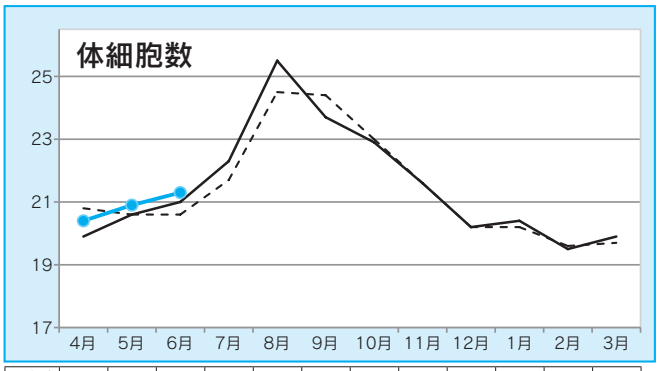
29年度	3.89%	3.83%	3.80%	3.81%	3.76%	3.77%	3.87%	3.96%	4.02%	4.02%	4.02%	3.92%
30年度	3.86%	3.82%	3.78%	3.80%	3.70%	3.78%	3.90%	3.98%	4.01%	4.02%	3.98%	3.97%
31年度	3.95%	3.84%	3.80%									



29年度	8.82%	8.79%	8.78%	8.67%	8.65%	8.76%	8.82%	8.86%	8.88%	8.85%	8.88%	8.82%
30年度	8.76%	8.74%	8.75%	8.66%	8.68%	8.72%	8.81%	8.84%	8.85%	8.86%	8.83%	8.83%
31年度	8.82%	8.74%	8.74%									



29年度	2.6	3.0	2.9	3.5	3.5	3.0	2.6	1.4	2.3	2.6	2.6	3.0
30年度	2.4	3.0	3.0	4.1	3.9	3.1	2.5	3.0	2.8	2.2	2.2	2.4
31年度	2.3	2.5	3.4									



29年度	20.8	20.6	20.6	21.7	24.5	24.4	23.0	21.6	20.2	20.2	19.6	19.7
30年度	19.9	20.6	21.0	22.3	25.5	23.7	22.9	21.6	20.2	20.4	19.5	19.9
31年度	20.4	20.9	21.3									

平成31年度会員別生乳受託乳量

（単位：ｔ、％）

	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合　計	
	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比
4月	6,704	98.6	1,298	95.9	3,283	94.5	22,155	99.2	6,020	96.2	6,728	95.6	7,334	92.0	53,521	96.9
5月	6,730	98.2	1,308	99.5	3,266	93.9	22,441	100.1	6,116	97.5	6,807	95.6	7,332	92.7	54,000	97.5
6月	6,260	99.3	1,211	101.7	2,969	94.7	20,867	100.5	5,656	97.1	6,345	97.1	6,548	90.4	49,856	97.8
合 計	19,694	98.7	3,817	98.9	9,518	94.4	65,463	99.9	17,792	97.0	19,880	96.1	21,213	91.8	157,377	97.4

平成31年度販売状況について

用途別生乳販売実績

（単位　数量：t、前年比：％）

用　途		4月			5月			6月			第1四半期計		
		数　量	前年比	単価	数　量	前年比	単価	数　量	前年比	単価	数　量	前年比	単価
飲用等向け	域内飲用向	23,824	105.9	114.069	24,720	103.7	114.602	25,548	107.0	115.170	74,092	105.5	114.624
	学校給食向	2,609	95.7		3,870	92.2		4,279	96.4		10,758	94.7	
	域外飲用向	9,040	83.5		10,404	88.3		7,798	77.3		27,243	83.3	
	飲用牛乳等向計	35,472	98.4		38,994	97.9		37,626	97.9		112,092	98.1	
	はっ酵乳等向	7,450	99.8		7,790	98.3		7,878	99.6		23,118	99.2	
	飲用等向合計	42,922	98.6		46,785	98.0		45,504	98.2		135,210	98.3	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向	7,785	89.7	79.422	4,584	93.7	80.463	2,001	92.3	82.680	14,370	91.3	80.401
	クリーム等向	2,713	93.5		2,531	95.8		2,263	94.1		7,507	94.5	
	チーズ向	101	101.1		101	102.3		88	89.4		291	97.6	
	特定乳製品向計	10,599	90.7		7,216	94.6		4,352	93.2		22,167	92.4	
販売乳量合計		53,521	96.9	107.207	54,000	97.5	110.040	49,856	97.8	112.334	157,377	97.4	109.803

支払乳代

（単位　金額：千円、単価：円）

項　目	4月		5月		6月		第4四半期計	
	金　額	単価	金　額	単価	金　額	単価	金　額	単価
生乳販売金額①	5,737,859	107.207	5,942,181	110.040	5,600,486	112.334	17,280,525	109.803
脂肪加算金	46,034	0.860	38,030	0.704	30,848	0.619	114,911	0.730
無脂固形加算金	52,644	0.984	47,643	0.882	43,460	0.872	143,746	0.913
成分加算金計②	98,678	1.844	85,672	1.587	74,307	1.490	258,657	1.644
季節別調整率③	94%		94%		100%			
季節別調整額	-344,272	-6.432	-356,531	-6.602	0	0.000	-700,802	-4.453
調整後乳代④＝①×③	5,393,587	100.775	5,585,650	103.438	5,600,486	112.334	16,579,722	105.350
販売手数料	-16,477	-0.308	-17,014	-0.315	-17,024	-0.341	-50,515	-0.321
生乳検査料	-6,423	-0.120	-6,480	-0.120	-5,983	-0.120	-18,885	-0.120
送乳経費	-212,042	-3.962	-227,521	-4.213	-197,783	-3.967	-637,346	-4.050
需要者負担額（運賃補填）	1,122	0.021	1,047	0.019	1,490	0.030	3,658	0.023
ＣＳ・冷却費	-53,074	-0.992	-49,983	-0.926	-49,140	-0.986	-152,198	-0.967
プール費用⑤	-286,894	-5.360	-299,952	-5.555	-268,440	-5.384	-855,285	-5.435
差引乳価②＋④＋⑤	5,205,371	97.258	5,371,370	99.470	5,406,353	108.440	15,983,095	101.559

酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告について

ハッピーミルクフェスタ2019開催！

○模擬搾乳コーナー

○牛乳ヒゲコンテスト

○九州Love Milk Club PRタイム

○牛乳試飲コーナー

○「九州生まれの牛乳」パッケージ展示

○ステージショー

6月1日（土）「牛乳の日」、九州の牛乳や酪農の魅力を伝えるため、会員役職員及び生産者のご協力のもと「ハッピーミルクフェスタ2019」を開催しました。

会場となったイオンモール福岡は終日天候に恵まれ、多くの方が来場し、用意していたリーフレット6,000

部・風船600個は全て配布・贈呈することができました。酪農理解醸成につなげるスタンプラリーでは、3つの酪農体験コーナー（①搾乳 ②哺乳 ③牛のエサと堆肥）を展開しました。消費者にとってはスタンプを集めながら酪農について楽しく学べることもあり、子どもから大人まで多くの関心を集めていました。また、試飲コーナーも終日大盛況で「カルピスの混ぜ飲みのおかげで牛乳が苦手な子どもが飲むことが出来ました」などのご感想をいただきました。

ステージイベントでは、昨年に引き続き、牛乳ヒゲコンテスト・牛乳クイズ大会を実施し、来場者に楽しんでいただけました。また、「九州Love Milk Club PRタイム」では、隈部会長から九州の酪農の魅力や、牛乳を飲むことで得られる健康効果などについて説明があったほか、「2020年全共PRタイム」では、全共実行委員会の外山事務局長から第15回全国ホルスタイン共進会の告知と、牛乳・乳製品販売ブースの出店やステージイベント、酪農器具の展示など開催期間中に実施する内容について説明があり、来場者に九州酪農・牛乳の魅力をアピールしました。

これからも酪農理解醸成と牛乳の消費拡大のための様々な施策を展開してまいります。

実施日		令和元年６月１日（土）［牛乳の日］
会　場		イオンモール福岡
実施内容	フロアイベント	サンプリング、模擬搾乳・模擬哺乳コーナー、牛のエサコーナー、MILK JAPANクイズコーナー、牛乳パック・酪農家の1日パネルの展示、牛の着ぐるみ回遊、無料試飲コーナー、顔見せパネルの設置、骨密度測定コーナー、スタンプラリー、牛乳購入者への抽選会、全共PRパネルとカウントダウンパネルの展示
	ステージイベント	FMラジオ公開収録、九州Love Milk Club PRタイム、MILK JAPAN PRタイム、2020年全共PRタイム、牛乳ヒゲコンテスト、牛乳クイズ大会、ステージショー
配布物		リーフレット6,000部、風船600個 無料試飲コーナー：牛乳750杯・カルピス牛乳1,485杯

new ABCクッキングスタジオで牛乳料理教室を実施します！

牛乳消費拡大の新たな事業として、九州各県のABCクッキングスタジオの生徒を対象に、牛乳料理教室を実施します。そのまま飲む牛乳の美味しさはもちろん、材料としての牛乳が料理に万能であることを訴求することで、家庭で牛乳を使用するきっかけを作り、牛乳料理の普及に繋げます。

実施時期	令和元年10月～令和2年1月で調整中
開催場所	［ABCクッキング各県のスタジオ］ 福岡：天神イムズスタジオ、福岡：JR博多シティ、佐賀：ゆめタウン佐賀、長崎：アミュプラザ長崎、熊本：熊本鶴屋WING館、大分：アミュプラザおおいた、宮崎：イオンモール宮崎、鹿児島：調整中
参加人数	ABCスタジオ会員（各会場40名×7ヶ所＝280名）
レッスン内容	3品（メイン料理・副菜・デザート）※現在レシピ開発中

ファン獲得運動や酪農家紹介ムービー、牛乳料理やイベント情報はこちらをチェック！
まずは検索してみてくださいね！

ホームページは ミルとミク で検索　URL：https://kyuhanren.com
フェイスブックは 九州生乳販連 または @kyuhanren で検索
URL：https://www.facebook.com/kyuhanren

平成31年度酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーターを募集します！

酪農教育ファームとは、全国の酪農家および関係者が牧場や学校などで主に教育関係者と協力しながら行う酪農理解醸成活動です。

平成31年度現在九州では、酪農体験等を通して、食への関心を高め、酪農の仕事を理解してもらい、いのちの大切さを実感してもらうために54名のファシリテーターと30戸の認証牧場が活動を行っています。

活動内容	酪農教育ファームの活動としては、牧場に地域の子どもたちや先生方を受け入れて酪農体験を行う受入型酪農体験や、近隣の小学校などを訪れ酪農のお話をしたり、模擬搾乳牛や本物の牛を学校へ連れて行き乳搾り体験を行う訪問型酪農体験学習を実施しております。 また、平成28年に発生しました熊本地震に係る熊本地震復興支援事業を実施しており、熊本市内の小学校を訪れ酪農の力で子どもたちの心の傷を癒すための酪農体験等を今年度も計画しています。
申請方法	ファシリテーター・認証牧場共に指定の申請書にご記入のうえ下記連絡先までご連絡下さい。申請書は（http://www.dairy.co.jp/edf/）よりダウンロードできます。
申込締切	令和元年10月31日（木）

九州生乳販売農業協同組合連合会　福岡県福岡市博多区博多駅前4丁目32－18
担当：総務部　長尾 卓弥　TEL 092-432-6021 / FAX 092-432-6022